平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ５４ ※記入不要	提案機関名	湘南地域農業改良普及センター

要望問題　堆肥の品質評価及び利用方法の確立

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

【背景】

家畜ふん堆肥の肥料成分含量は処理施設、副資材等の違いにより、同畜種由来の堆肥でも大きな幅がある。

また堆肥の品質について、現場で問題となっている事項があり、堆肥の利用を進める上で解決が必要である。

堆肥を施用する際、簡易に品質を評価できる基準を示すとともに、堆肥中の肥料成分を考慮した施用基準を作成していただきたい。

【内容】

・肥料成分の異なる堆肥の肥効の違い
・ＥＣの高い牛ふん堆肥の施用方法
・腐熟期間と堆肥の品質との関連
・堆肥の発酵温度と雑草種子生存率の関連
・副資材（ｺｺｱ粕、ｺｰﾋｰ粕、ｵｶﾞｸｽﾞ、剪定屑）の異なる堆肥の使用方法

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：農業環境部	
対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

①　有機性廃棄物混合堆肥の品質評価法の開発（平成 17 ～ 19 年）
②-ア　生ごみ処理物を利用した高品質融合堆肥製造技術の開発（平成 14 年～ 16 年）
②-イ　有機性リサイクル製品の有効性、安全性の調査（平成 13 ～ 16 年）
②-ウ　LIBS 法による新たな堆肥成分分析法の開発（平成 16 年度　重点基礎研究）
④　有機性廃棄物の肥料化技術の開発（平成 10 ～ 12 年）

対応の内容等

農業環境部では、関係機関と協力し、牛ふん堆肥の含有成分（特にリン酸、カリ）の高濃度化を明らかにしました。（平成 12 年度試験研究成績書（農業環境））（④）

また、これら肥料成分の高い牛ふん堆肥の利用方法として、生ごみ処理物と家畜ふん等の混合による堆肥の高品質化について検討を行っています（②-ア）。（平成 14 ～ 15 年度試験研究成績書（農業環境））

堆肥に含まれる肥料成分の堆肥の簡易な成分分析手法の検討を平成 16 年より実施しています。今後、継続して課題化し、検討します。（②-イ、ウ及び①）

以上のように堆肥の有効利用推進のための研究を行ってきておりますが、家畜排泄物の有効利用のいっそうの推進のために、堆肥の品質評価や施用基準の問題について、新たに課題化し、畜産研究所等関係機関と連携して実施する予定です。（①）

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	畜産研究所との共同研究を予定。